

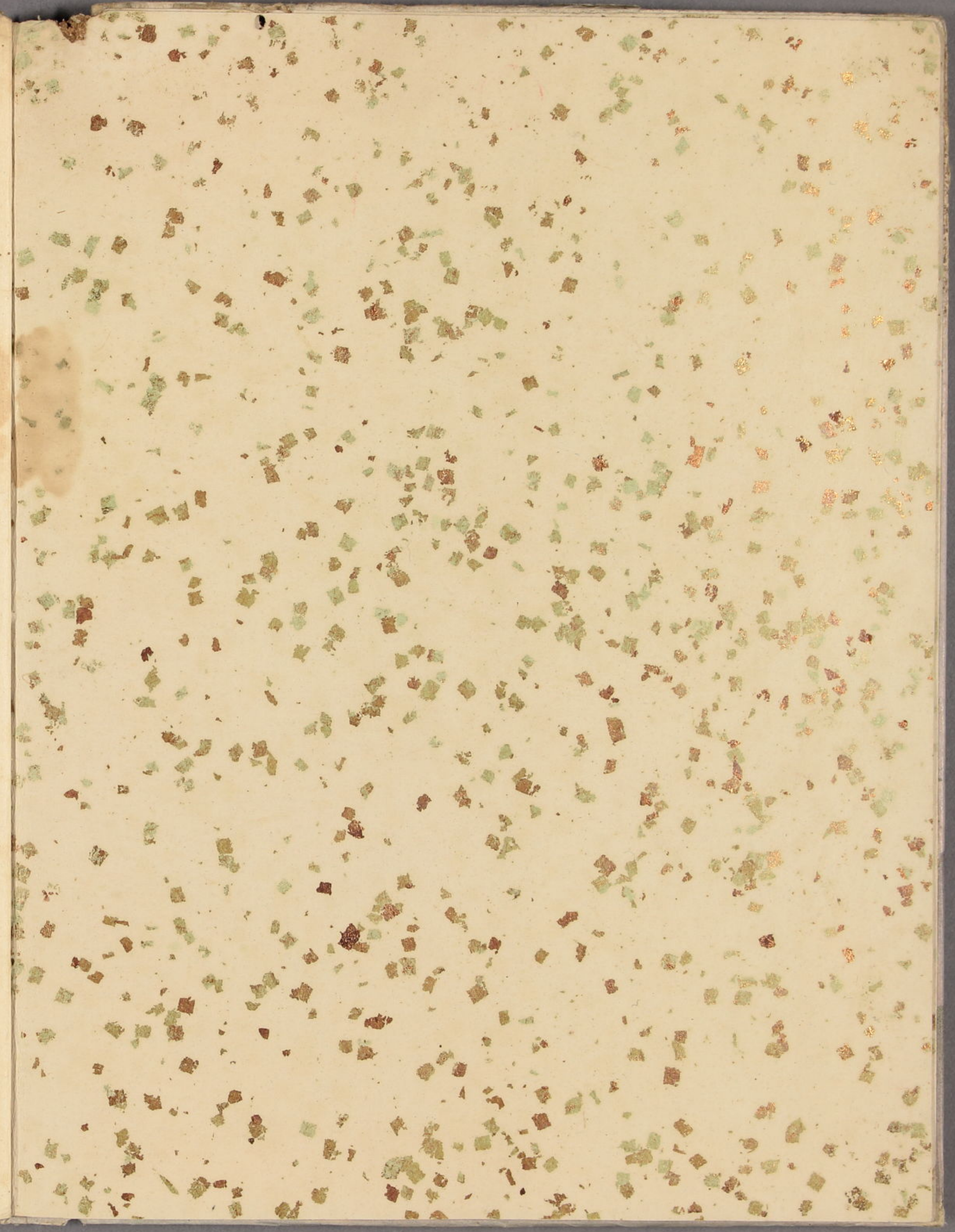


元文年間時代の物

珍本

大村伯島計家拂下

昭和十一年二月十日市野六一氏ヨリ
分譲アリタリ



しんせき

利向中記
ついで

去冬今半以梅丸ニ及

五
利向中記の意解をきく中

しんせき

川ニも流るるのよりの花の多

流リのよりの水ニ肩ノ山ノ河ノや

音ニやとんニ舌ノ扇ノの叫ノりガ

くねニ垂ル守ルかハなシじシ校

前ニの中ニもハけニもハの

去リちハよハほハ山
おし出して
これハ初メの

分リと清クんハちハかハこハ花ノ井ノ也ハ
おも

河ノまハうハるハるハ河ノれハの

○
おまへのいれよどくしるる様

泪なきにんげん 嘗て此言

○
引よ 葛原中 海の伊勢かたはの位
ぬきとりの
又よはら

たまはありれよ梅れ物し
はらせ

○
片にほしきうらそのみねおま
なやあら

引よ ぬきとりの袖の求子
なやあら

引よ たてはのこころの月あ
ほろ

○
申川 けりり 成良の草葉
美やあら

轉ニウしるはし世をばらばら

ふはもさる社をばらばら

字に月かふのや
有あはる無

川舟のうらまはる

たのふ人かたし
美やあはる無

園ふしけはるのや火

引し遇る花のふく
有あはる無

からうりを行く

草むらね初成るる白くさけの島

夢しりくふなふしり嶽

おしもの方と二行の小鉢のあ

*おしひおてま
これ初るもの*

洲次孫ふ里るま

りあし
*おしひおてま
これ初るもの*
月海

川を定むる初る

おしもの山百成
*おしひおてま
これ初るもの*
玉れえ

河つふむらさき

葛^ハつる中^ハの卯^ハの夜

新^ハらむ^ハつる^ハ梅^ハの^ハさ^ハか

之^ハを^ハ交^ハして^ハ月^ハの^ハ里

おしひ出て 鮫^ハの^ハ 此地^ハの^ハ 初^ハの^ハの

肩^ハに^ハ目^ハの^ハ遊^ハ入

ぬきや人の 又^ハは^ハの

三^ツ

か^ハつ^ハる^ハの^ハ秋^ハの^ハあ

（おしひ）の^ハ 林

歳^ハの^ハ神^ハの^ハ帯

引^ハた^ハの^ハ河^ハの^ハ実

有^ハあ^ハの^ハ 想

え^ハの^ハの^ハの^ハの^ハの



ふ阿ふふふふふふふふふふ
ふふふふふ

七九と回ふふふふふふ

影ふふふふふふふふふ
ふふふふ

尾ふふふふふふふふふ

大ふふふふふふふふふ

阿ふふふふふふふふ

神ふふふふふふふふ
ふふふふ

清ふふふふふふふふ

昔も人の中し出入り世の里

世の中は世の中

とくまに家とし岐し門

引成に似てはるるのつら

おしひ出てはるるのつら
これハ初なるもの

引成に似てはるるのつら

引成に似てはるるのつら

引成に似てはるるのつら

引成に似てはるるのつら

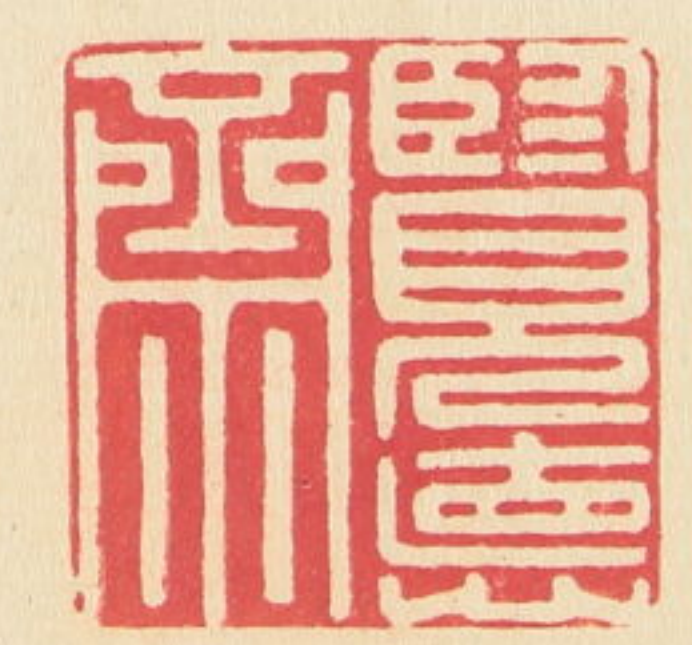
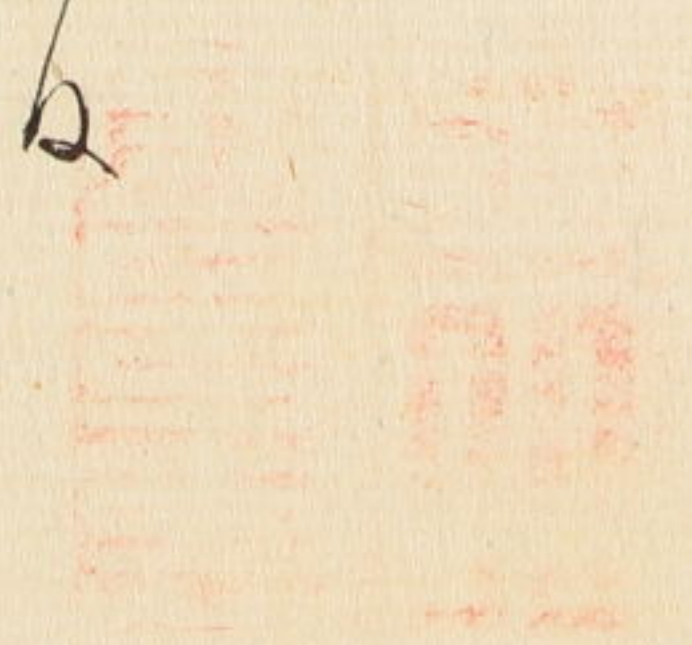
引成に似てはるるのつら

引成に似てはるるのつら

はつや香
池
去
の
月
は



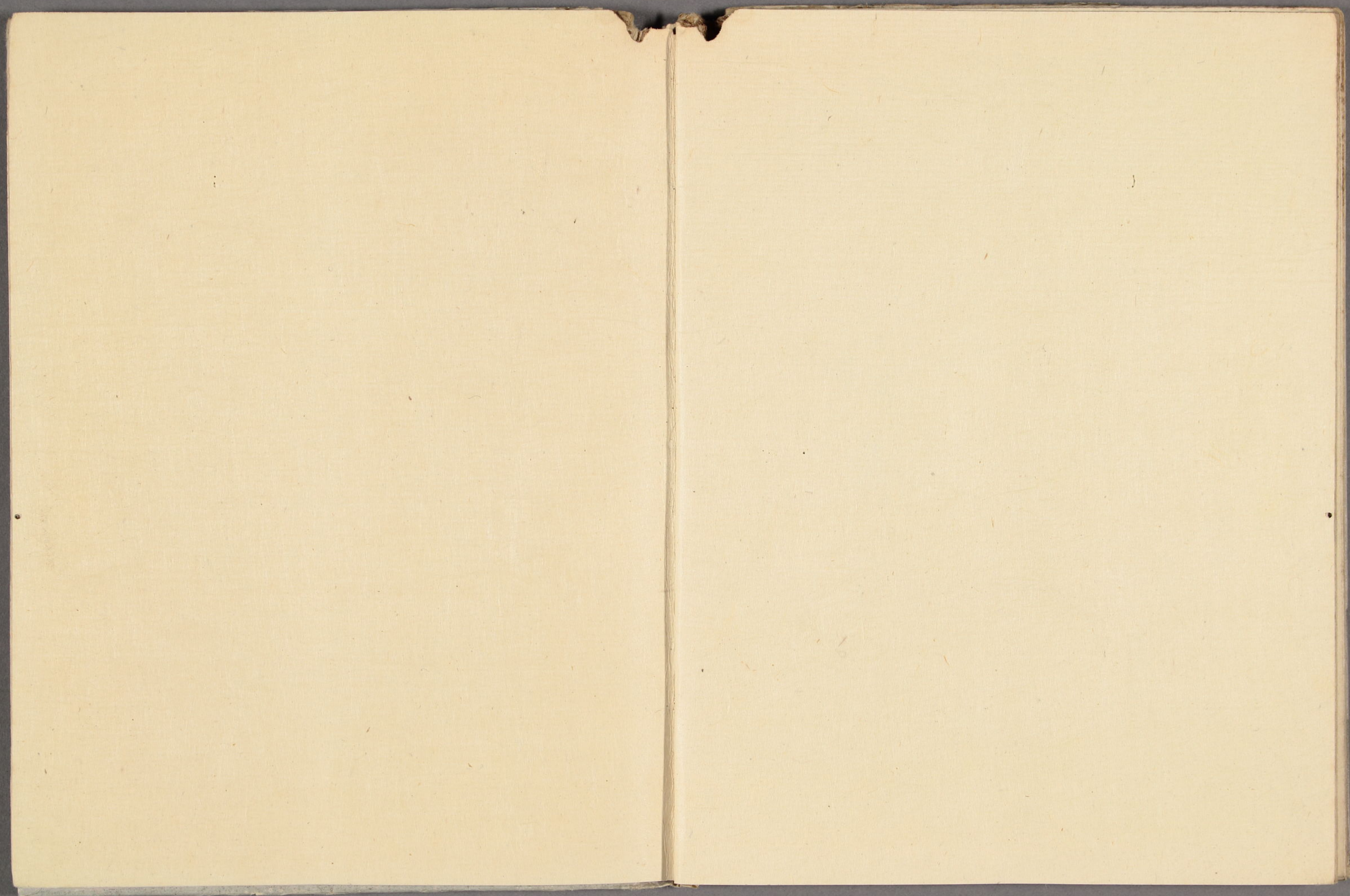
水
は
た
り
て
白
い
花
は

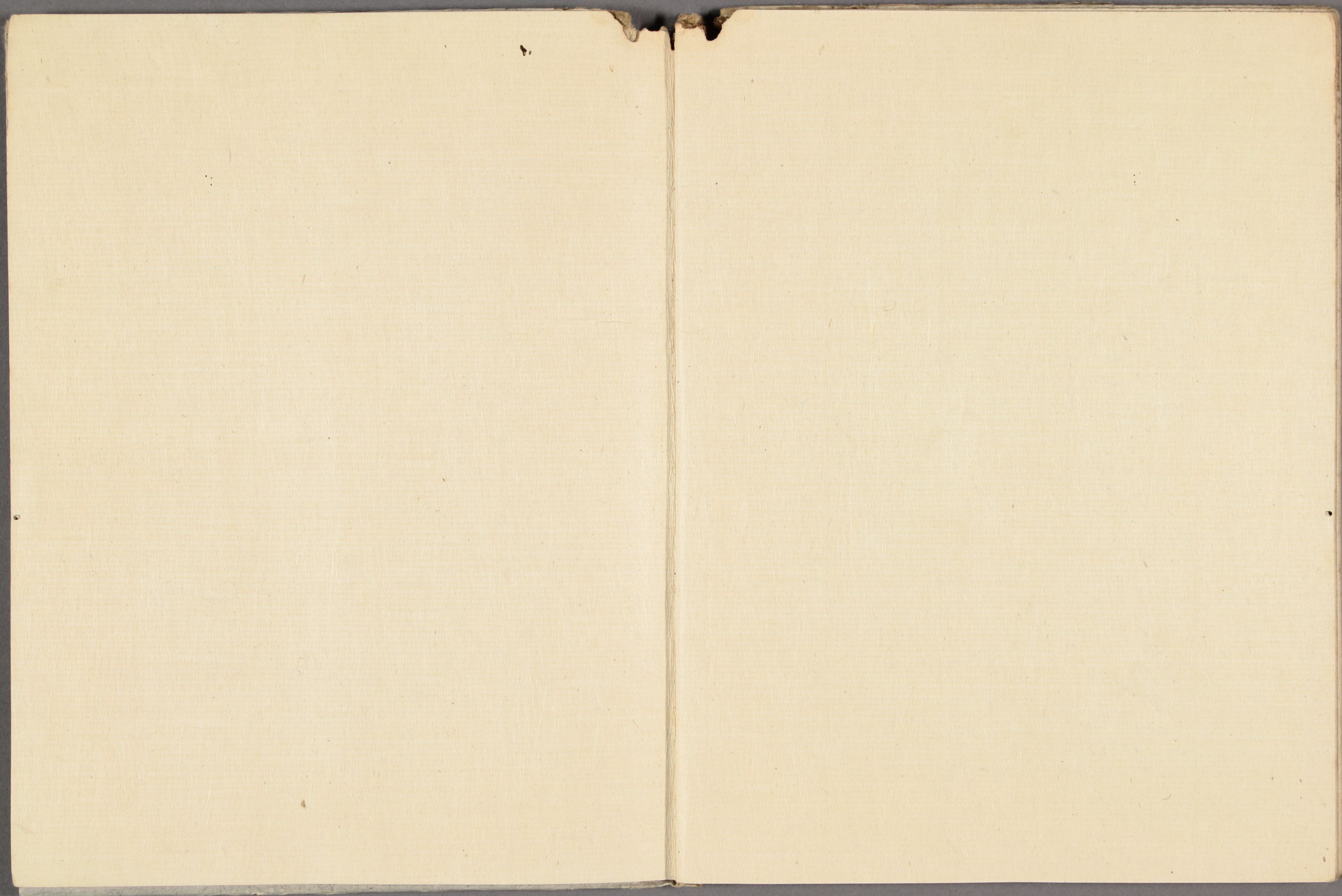


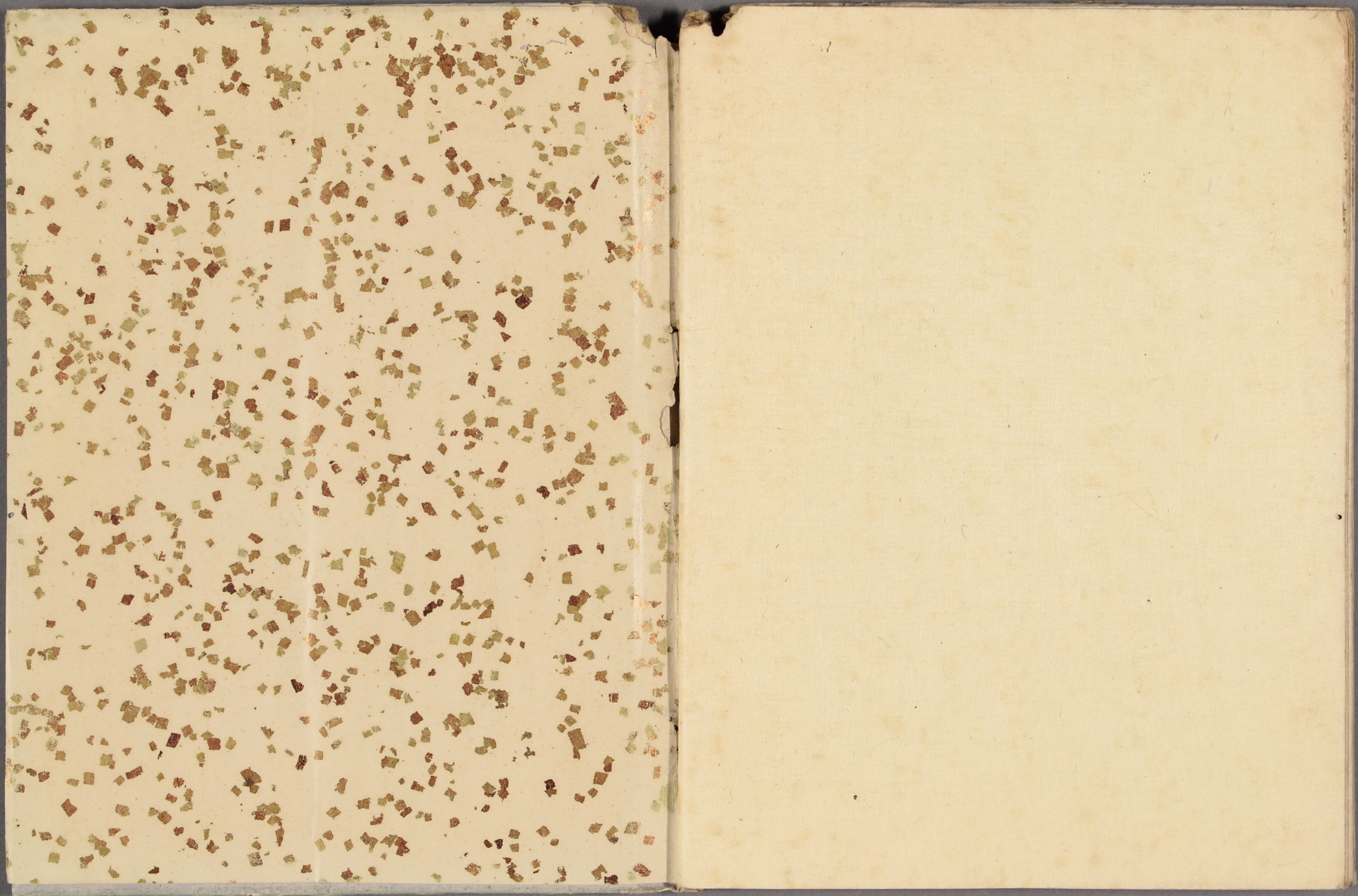
為
翔

月
は
花
は
白
い
花
は









Handwritten text in a fan-shaped area, likely a signature or note, written in cursive script. The text is arranged in several lines, starting from the top right and moving towards the bottom left. The characters are difficult to decipher due to the cursive style and the angle of the page.